![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２９年１１月号（20171124）　　　　　　　 　園長　平澤　正則

がんばっている親子をみながら感じたこと

　過日の運動会で感じたことの第一は，ゆき組の大久保龍之介君のお母さんが全力で走ってくれたことです。それを褒めると，子供に合わせて自らの力を抜いた走り方をした人を非難しているのではないかと思われるかもしれませんが，そうではなく，できる時にできるだけの力を見せることもまた親として，社会人としてとても良いことですよと言いたいわけです。あの時は龍之介君も自分の力で走り，お母さんが引きずっていたわけでも決してありませんでしたし，見ている方の多くも私と同じように，親子の力一杯の走りに心地良く興奮したのではないでしょうか。何かをする時，大人（幼年期では保護者を指すことが圧倒的に多いと思われます。）が目一杯取り組んでいる姿を子どもの目に焼き付けるというのも子育て時代の一つのやり方だと思います。大久保さんの場合，それがたまたま皆が見ている中で行われたので，私にも大久保家の子育てを感じる機会となりましたが，他の皆さんもそれぞれに，いろいろと奮戦されていることだろうと察しております。

　私の長男にも今年2人目の子どもが生まれました。年に3回程帰省した時にその夫婦の様子を見ていると，本当に朝から晩まで子どもが中心の生活であり，自分から起きたのか子どもに起こされたのかはわかりませんが，目覚めたその時から授乳，排泄，あやして，寝かせて，抱っこして…，その間に2歳の女の子の話し相手になり，食べさせて，おむつを交換させて，遊び相手になりながらおもちゃの片づけをしていたかと思うと，次に目を向けた時には階段の所まで追いかけて行きと，次から次へ，やってもやっても終わらない子ども相手の生活です。たまに我が家に戻ってきた時ぐらいはゆっくりさせてもやりたいけれど，そんなことは言えません。仕事が休みだから来ているのであって，だからこそ朝から晩まで子どもに付き合ってもいられるのでしょうが，普段はどうしているのだろうとその若夫婦を見ながら心配したり，感心したりの日々でした。その様子を半ば他人事のように冷静に眺めながらも，孫可愛さと長男夫婦への同情から私も手を出さずにはいられず，妻に負けじと張り切ってしまうのでした。

　幼稚園の保護者の皆さんは少なくともこの３年程，多い方は１０年以上に渡りそのような日々を送ってきたのだろうと思うと，本当に頭の下がる思いです。毎日毎日が悪戦苦闘の連続との嘆きを隠しての日々を送っている方もいるのではないかと心配せずにはいられません。是非ご自身の身体の健康と心の健康にも日々僅かでも良いから気を遣い，これからますます寒くなる日々をお過ごしください。子どもたちとって一番大切な栄養源，生きる力の源は，皆さんの元気な姿であり，優しい笑顔なのですから。